13129	言語発達心理学 Psychological Study in Language Development	2 年次～ 後期 2 単位
担当者	江尻 桂子	履修可能学科 E Pc C W F 関 連 資 格 保育・日本語選必 (P c)
サブタイトル	ことばの発達と障害、その支援について発達心理学の観点から理解する	
授業内容 ： ねらい	この授業では、人がどのようにしてことばを話すようになるのかということ、生物学的観点、心理学的な観点、そして教育的な観点から学びます。進化の過程でなぜヒトのみが言語を持ちえたのか、また、言語を獲得するためにはどのような発達の基礎が必要とされるのかについて学びます。さらに発達臨床心理学の立場から、ことばの障害について、その種類や状態について概説します。保育や教育の現場で多く寄せられる「ことばの相談」についても、主な相談の内容や回答方法について事例をもとに学びます。また、現在注目されている発達障害についても学び、ことばやコミュニケーションの観点から理解します。ことばをめぐる諸問題としては、発達心理学の立場から、第二言語習得（特に英語学習）の在り方について考えます。さらに、ことばを育むのに重要となる絵本についても取り上げ、皆さんに「私の一冊」を発表していただきます。授業の感想や意見を求めることがあります。個々の単元が終わるごとに、小テストを予定しています（全部で5回程度）。学期末試験に際しては、十分な準備が必要となります。	
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 ヒトはなぜ言語を獲得したか（1） 第3回 ヒトはなぜ言語を獲得したか（2） 第4回 言語獲得の基礎となるもの（1） 第5回 言語獲得の基盤となるもの（2） 第6回 言語獲得の基盤となるもの（3） 第7回 ことばの障害（1）：ことばの障害の定義 第8回 ことばの障害（2）：ことばの相談事例	第9回 ことばの障害（3）：ことばの支援の在り方 第10回 発達障害とことば：発達臨床の立場から 第11回 ことばをめぐる諸問題（1）：第二言語習得 第12回 ことばをめぐる諸問題（2） 第13回 絵本とことば（1） 第14回 絵本とことば（2） 第15回 総まとめ ＊授業内容は変更することがあります。
教科書 参考書	参 岩立志津夫・小椋たみ子（編）『よくわかる言語発達』（ミネルヴァ書房） 参 内田伸子（編）『よくわかる乳幼児心理学』（ミネルヴァ書房）	
評価方法	主に、学期末試験およびレポートの成績、授業態度により評価します。欠席が全授業の三分の一以上（5回以上）であった場合や、レポート未提出もしくは試験未受験の受講生には、原則として単位を出すことができません。	
事前準備学習 履修条件等	「発達心理学」を履修済みまたは履修中であることが望ましい（←履修可能な学科に関して）。 授業中の私語、携帯メール、音楽を聴く、飲食など、他の受講生に迷惑をかける行為やマナー違反と考えられる行為は謹んでください。受講生多数の場合はP科および資格取得に関連する学生を優先します。席席を指定しますのでご了承下さい。	